

病院見直し 団体発足

伊勢 規模縮小の要望書提出へ

事業費の高騰が問題となつている伊勢市立伊勢総合病院の建て替え計画の見直しを求め、同市岩渕のいせシティプラザで初会合を開いた。開業医を含め二十五人が集まり、新病院の規模縮小を訴える要望書案をまとめた。

要望書は十一日に鈴木健一市長や全市議に提出する。十二日には市議会本会議で新病院の建設費を含む補正予算案が採決される予定だが、継続審議にするよう主張する。



伊勢総合病院の建て替え計画に意見を述べる参加者たち＝伊勢市岩渕のいせシティプラザで

の問題点を述べた。

地域の意見 耳傾けて

在宅医療取り組む遠藤医師

いせ在宅医療クリニックの遠藤太久郎医師が、伊勢総合病院の建て替え計画に対し文書で示す口頭で述べた意見は次の通り。

◇ 総合病院の建て替え計

団体は市議会の閉会後も活動を続ける方針。◎浦田繁さん 90(5638) 3279

(大島康介)

自宅を過ぎ、患者を早期退院を迫られる。診療する「在宅医療」に取り組んでいる。現在の伊勢市内の病院は、入院患者を在宅復帰させる点があまく機能していない。



自宅に戻す回復期病床を増やせば地域で大きな役割を果たせる。現在の計画は、命に関わる急性期の患者への対応を最優先にしているようだ。院長は「病床を転換し、回復を増やすことができない」と言いが、開業当時から増やすべきだ。伊勢総合病院の関係者は、地域の人々がどんな医療を求めているか耳を傾けてほしい。医療は公的なものであり、公立病院の機能は、みんなで考え、決めていくべきものだ。